

## 原文

バイオテクノロジーの技術を用いて、インシュリン<sup>せいざい</sup>製剤などの薬が開発され、遺伝情報をもとに、がんやエイズなど、難病の治療が模索されている。2003年にはヒトゲノム(人間の全遺伝子)の解読完了が宣言された。一方、遺伝子組み換えによって病虫害に強い穀物<sup>こくもつ</sup>がつくれ、クローン技術を用いた羊や牛もすでに誕生した。クジラ・マグロ・類人猿<sup>るいじんえん</sup>などの遺伝子解読も進行している。

クローン人間の誕生が現実みをおびてきた今、人間の遺伝情報は高度なプライバシーに属している。しかし、個人情報<sup>りんりてき</sup>を保護する制度の整備はおくれがちで、人間存在に関わる倫理的な論議もつくされてはいない。また、遺伝子組み換え食品には危険ではないかという懸念<sup>けんねん</sup>がつきまとっているが、この種の情報を周知させることはなかなかむずかしい。世界の現状では経済的効率や食糧増産も視野に入れなければならないだろう。

性格の異なる問題が列举されており、理解し難い表現である。

## 修正文

バイオテクノロジーの技術を用いて、インシュリン<sup>せいざい</sup>製剤などの薬が開発され、遺伝子情報をもとにがんやエイズなど、難病の治療が模索されている。2003年にはヒトゲノム(人間の全遺伝子)の解読完了が宣言された。クジラ・マグロ・類人猿<sup>るいじんえん</sup>などの遺伝子解読も進みつつある。遺伝子組み換えによって病虫害に強い穀物<sup>こくもつ</sup>が作りだされたりもしている。また、すでにクローン技術を活用して羊や牛が生まれており、技術的にはクローン人間の誕生さえ可能だといわれている。

こうした現状では、人間存在に関わる倫理的な論議<sup>りんりてき</sup>が十分につくされなければならない。個人の遺伝情報を保護するために、万全<sup>ばんぜん</sup>の法制度を整えることも求められる。人体にとって危険ではないかとの懸念<sup>けんねん</sup>もある遺伝子組み換え食品に関して、確かな情報がひろく周知されるべきことは改めて指摘するまでもないだろう。